

蓬庵社賞受賞者

杉山 雄一 博士

城西国際大学 イノベーションベース特別荣誉教授

東京大学名誉教授

理化学研究所名誉研究員



【授賞理由】

杉山博士は、東京大学薬学部を卒業後、同大学院博士課程在学中に製剤学教室の助手に就かれました。その後、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）に留学し、肝臓生理学の研究に従事されました。帰国後、東京大学薬学部製剤学の教授となり、分子薬物動態学の研究をリードされ、薬物動態学の教育や普及に力を注ぎ、多くの優秀な後進を育成されました。その間、東京大学薬学部長・研究科長も務めました。

研究面では、薬物体内動態を分子レベルで解明するために、先進的な分析技術や数理モデルを開発し、応用されました。特に、薬物トランスポーターや代謝酵素の発現制御、相互作用に関する研究を介して、薬物の効果や副作用の予測、個別化医療の実現に貢献されました。

杉山博士は、薬学分野において、優れた研究業績と社会貢献を果たしたことに対して、高く評価されており、日本薬学会賞や紫綬褒章、瑞宝中綬章などの国内の賞だけでなく、米国薬学会（AAPS）、国際薬学連合（FIP）、国際薬物動態学会（ISSX）などからも国際的な賞を受賞されています。特に“AAPS Distinguished Pharmaceutical Scientist Award”は、隔年1名に授与される米国薬学会の最も権威ある賞であり、米国在住者以外で初めて授与された点は特筆に値します。

以上、杉山博士は、トランスポーター研究を中心に、分子レベルと個体レベルの研究成果を定量的に連結する方法論を開発し、創薬手法の発展に多大な貢献をされました。我が国における科学の発展に尽くしたものであり、その功績はまことに顕著であります。

【略歴】

- 1971年 東京大学薬学部卒業
- 1974年 東京大学薬学部（製剤学）助手
- 1979-81年 米国 UCLA 医学部に留学

1989年 東京大学薬学部（製剤学）助教授
1991年 東京大学薬学部（製剤学）教授
1997年 東京大学大学院薬学系研究科教授（製剤設計学教室、2003年改称：分子薬物動態学）
2008年 東京大学大学院薬学系研究科長・薬学部長
2012年4月 理化学研究所杉山特別研究室特別招聘研究員
2013年 理化学研究所イノベーション推進センター特別招聘研究員
2018年 理化学研究所科技ハブ産連本部特別招聘研究員
2021年 城西国際大学薬学部特別荣誉教授
2021年4月 城西国際大学イノベーションベース特別荣誉教授 現在に至る